

2020/10/18 聖霊降臨後第20主日（特定24）  
東京聖三一教会 マタイ 22:15-22

本当に何ヶ月振りかで、先主日からこうして皆さまとご一緒に礼拝を教会でおささげできますことは、心からの喜びです。同時に、このような時期だからこそ、まだ教会に行くことにご不安を感じていらっしゃる方や、お体調によってご自宅から出られずにいらっしゃる方々を覚えます。出向かないという選択をされていることは、ご自分のみならず、ご家族や大切な方々への配慮でもあります。そのようなお一人おひとりの選びを神さまが祝福してくださっていることを覚えたいと思います。

このような状況の中で、礼拝のネット配信も新たに実施しています。新しい試みですので、様々なご心配をお持ちの方もいらっしゃると思います。どうぞ些細と思われるようなことでも、ご遠慮無く牧師までお伝えください。

また、教会委員の方々を中心にしばらくは感染防止のための対策をさまざまに行つての礼拝となります。皆さまのご協力とご理解に感謝申し上げます。

このようなことを、説教の冒頭にお伝えしなければならいほど、今、わたしたちの信仰の歩みや共同体は、非常に強いストレスを受けています。教会に集まってともに礼拝をささげるといふ、わたしたちが最も大切にしてきたことが、まるで風で飛ばされるほどの軽いものかのように実現できなくなってしまった経験を突然することになってしまったからです。しかも世界中の神の家族が同時に経験するという前代未聞のことが起こりました。

正直、教会に連なるわたしたちは今、非常に不安定です。ここに今日集っている方々にしても、これまでと同じ様に礼拝に参加しているように見えても、実は確実にその心持は

違っていらっしゃるだろうと思います。わたし自身もいつまでこの礼拝は続くのだろうか、また突然奪われることがあるのではないだろうか、と思いつらしてしまいます。そう簡単に以前のような状況には戻らないことも知っていますので、ますますこれからのことを案じます。

そして、むしろ、社会においても、教会という交わりの中においても、これまでの歪みや弱さがこの現状によってより明確になっていることにも気づき始めています。これまで見ようとしていなかったこと、気づこうとしなかったことに否応なしに直面させられているからです。

実は、これまでも明日のことは分からなかったはずですが、しかしわたしたちは今がこれからも続くと思いつ込んでいました。そうしないと安心して生活できないからです。

けれども、わたしたちの世界は実にもろく、不安定であることを今は気づいています。それが、本当の意味での、わたしたちの霊的な危機となってしまうように、わたしたちはどこにいようと、神さまとの、そして信仰共同体の霊的な一致を求め続けていくことが大切になっていきます。

霊的な一致は、わたしたちが自ら獲得するものではなく、神さまから与えられる恵みです。神さまにすべてを信頼して今日を、今を生きていることを感謝し、わたしたちを用いてくださる神さま希望をもって身を委ねることによって与えられます。

その道筋を、聖書は実にわたしたちに教えてくれます。

今日の福音書をはじめ、この数週間、ずっと主イエスさまを陥れることとなる祭司長や律法学者たちが登場しています。そのため、対立の場面が続き、決して穏やかでも、癒やされるような温かい出来事でもありません。しかし、それらの厳しい聖書の物語の中にも、

わたしたちは自分たちの選ぶべき道を見出すことができます。彼らは、マタイの教会の人々にとってのみならず、わたしたちにとっても反面教師となる人々だからです。

今日の福音書にあるように、自分の思い通りにいかないということに心を奪われ、恐れ多くもキリストを陥れようと画策し、本来ならば手をつなぐはずのない人々と共通の敵を作ることでもことをなそうとする情けなさを聖書は伝えます。

自分たちはデナリオン銀貨を日常生活で使っているにも関わらず、ローマ皇帝への納税というユダヤ人の関心あるトピックだけを取り上げて、もっともらしく問題にする愚かしさを聖書は伝えます。

ローマだけではなく、神殿をも含めて重なり合う納税に、日々苦しんでいる貧しい人々のことを忘れ、自分たちは安全な場所に身をおいたまま、納税が合法かどうかと問うことの浅さを聖書は伝えます。

これらは神よりも、自分を基準とする生き方です。霊的な一致には決して至りません。

だからこそキリストは、ファリサイ派に対する言葉を通して、今のわたしたちにも命じられます。

「皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。」

この言葉は、わたしたちがこの不安定な時を過ごすにあたり、自分の基準に確かさを求めるのではなく、わたしたちが誰によって立っているのかという根本的なことを思い出させます。そしてわたしたちを招き、それぞれの場所に遣わし、器として用いてくださるのは神のみだということ、確信させます。

さらに、今のこの社会の中の誰に神さまが目をむけていらっしゃるのか、この霊的な交わりが何のためにあるのかを示し、それぞれが行うべき働きへと、不安の中にあるわたしたちをも招く言葉です。

ともに神を賛美し、祈り励まし合い、この世界で働かれる神とともにあることができるのは、わたしたちが神に整えていただいているからに他なりません。このような神こそが、わたしたちが堅く立つことのできる唯一の道筋であり、基準です。その基準に依っている限り、わたしたちは、たとえ明日どうなるのか分からなくとも、キリストの弟子としてこの時を力強く生きていくことができます。ご一緒にその道を確認しつつ、今日のこの一日も神がもたらしてくださる霊的一致の中で歩いていくことができますように、聖霊のお導きを心から祈り求めます。